

企画総務グループ打合せ（平成20年度 第3回）議事録

- ・日 時：平成20年9月8日（月） 14：00～17：00
- ・場 所：JGS会館地階B会議室
- ・出席者：東畑，岸田，石井，北本（記録），王，喜多，青木（事務局）
- ・欠席者：末政，玉手，大和

1. 企画進捗状況の報告

(1) 出張講義

- ・大豊建設(株)（3級）からの申し入れは、途中で取下げ
- ・国交省関東地整江戸川河川事務所からの申し入れについては、前回の荒川河川事務所対応で実績のある(株)日建設計・寺師氏で調整済み。内容は、河川整備に関連する地盤改良技術であり、10月9日(木)14時からで設定（石井副幹事長が同行）

(2) 講習会“あなたの家の地盤は大丈夫？”

- ・もともと本部対応事案であったが、中止扱いとなり関東支部へ対応依頼あり
- ・参加者の都合を考慮して、アフター5（17～18時半頃）のような時間帯とする
- ・一連のシリーズ（講師4名程度を想定）を単元ごとに分割開催（地盤工学本道の内容を重視し、他機関主査による類似例との差別化を図る）
- ・開催時期は来年1～3月で計画（本部行事の日程と要調整）

(3) 工法協会交流会 【別紙 - 2】

- ・当初より1協会追加し、都合5協会の参加による9月29日開催で会告案内済み（現状50名程度の参加申込み）
- ・参加協会には特別会員への入会依頼状を事前に送付

(4) 講習会“地盤技術者の英語”

1) 講習会形式

- ・電源開発(株)国際営業部・山田氏を講師として、10月6日(月)開催の会告案内済み

2) 添削形式

- ・国際会議で発表を予定している内容チェック等を目的に、グループ単位による講義形式を想定
- ・参加費は3,000円程度とし、労力の面や民業圧迫を避けるために格安・過大サービスを避ける
- ・提供できるサービス内容についての案内情報案を作成し、発案者である赤木先生と相談する

(5) 地盤耐震工学に関する3日間集中セミナー

- ・参加費（60,000円）は三軸試験講習会の70,000円よりも若干低めに設定（バランスシートとしては参加者数10人で収入を設定）
- ・定員は40名（会告案内には30名と記載）。会告案内の日程に誤字あり（12月10日 12日）
- ・今後、関西支部でも開催実施を計画予定（収益の配分は別途検討）

(6) 広報活動（Newsletter，支部HP 他）

- ・次号Newsletterの巻頭言は、企画総務G担当として喜多幹事が担当

(7) 多摩川ウォークラリー

- ・ウォークラリーの日程（11月8日(土)，雨天の場合は翌週15日へ順延），講師（慶応大・岸先生）に

ついて承認

- ・事務局として青木さんにご担当願う
- ・保険金（100円/人）を含めた参加費として、一般：1,000円、学生：500円を設定。講師謝礼、青木さん休日出勤（事前の事務連絡以外に事務局として当日出席の必要性があれば）手当て代を賄う予定
- ・11月8日が雨天中止となれば保険金の支払いは2回分となるが、2回とも中止となれば保険金は全額支部からの持ち出し（開催されれば参加費から回収）
- ・中央大からの学生による運営協力参加は、学園祭開催のため支障が生じる恐れあり

2. 支部長特命事項等への対応

(1) 中国四川省地震対応

- ・中国から11月に来日するので、堰き止めや地すべりに関する発表の場として11月17日(月)に支部主催の2時間ワークショップを開催予定
- ・参加費は資料コピー代や缶ビール代を含め2,000円に設定し、東大・内村先生に案内状作成を依頼
- ・発表報告は英語とするが、中国語の場合、王幹事や群馬大・蔡先生に和訳を依頼
- ・席上、希望者を募って訪中を計画する（会員サービスGと要調整：王幹事から、東京電機大・安田先生か群馬大・鶴飼先生に団長就任を打診（東畑幹事長は、本部代表として既に城南交通大学と連携）

(2) 創立60周年記念行事

- ・本部作成ポスターの貼付場所を支部で選定
- ・イベントを街（駅前）で行うにあたり、学生諸君にパワーポイントによる資料作成を要請（場所については、東畑幹事長でJR等に交渉）
- ・記念式典（来年8月19日）での特別講演・講師は、東畑幹事長、関東学院大・規矩先生で人選
- ・各支部では、20万円の予算で日程をずらせて（暑い期間を外して）独自の企画を計画

(3) カザフスタン対応

- ・杭を専門とするアスカー先生が11月10日か11日に来日し、東大で講演を予定
- ・国際部長の了解を得て、記念楯を贈呈

(4) 支部発表会

- ・概要の申込み締切りは9月18日であり、参加を呼びかける

(5) 研究委員会成果の取扱い

1) 液状化を考慮した性能設計に関する研究委員会

- ・支部による研究委員会の成果発表の場が本部へ移管された件に関し、本・支部共催としての扱いを依頼したが却下
- ・本部の担当理事（事業部長）による解決案として、「報告書の権利は支部持ちとするので、それを印刷したものを本部で買い取る形とする」（たとえば、200頁もので、5円/頁の印刷代とすれば1,000円/冊。3,000円/冊で100冊を本部で買い取れば、差し引き20万円の収益）
- ・この処置について受入れの是非が議論されたが、今後も支部交付金の削減が考えられるので、形はどうかであれ、増収になるものは受け入れようというスタンスで受諾の方針
- ・本・支部両方の立場を担っている場合、役割の線引きを明確にして支部の任務を遂行する必要あり

2) 三宅島火山災害に関する研究委員会

- ・当初40万円の収益を見込んでおり、講習会の開催では収支にも十分要留意

(6) 若手会員拡充に関する活動

- ・ 広島会議における支部提案内容の却下事由を 8 月末までに文書回答するという本部の対応は未実行
- ・ 若手エンジニアの国際交流，海外現場見学ツアーの仲立ち（旅費は各自負担），地盤工学会女性技術者（学生）との交流など楽しい企画立案の必要性あり

(7) 支部評議員会

- ・ 10 月 23 日(水)に向けて、各 G に資料作成を要請
- ・ 国交省関東地整から副支部長に就任願う（副支部長枠としては、1 名分の空きあり）
- ・ 東京都水道局の評議員について、交代の連絡あり

(8) 堤防技術研究会

- ・ 7 月 17 日のキックオフ（渡良瀬川等の堤防見学）を受けて、9 月 24 日(水)に第 2 回を開催予定
- ・ 江戸川の実物大堤防の実験施設を見学するとともに、参加各社が保有する豪雨モニタリング技術を紹介

(9) 国土交通省関東地方整備局と締結した“災害調査協定”の運用・整備

- ・ 関東地整と土木学会，地盤工学会，地すべり学会で締結（関東地整は東北地整と連携）
- ・ 地整は、学会サイドに要請した場合は経費を支払うが、学会サイドが打診した場合は手弁当扱い

4 . その他

- ・ 本部から平成 20 年度地盤工学会賞候補推薦の連絡あり
- ・ 次回の開催は、運営委員会の日程決定を受けて、別途調整